

平成23年8月5日

「文化庁メディア芸術祭国内巡回事業」について

文化庁では、文化庁メディア芸術祭国内巡回事業の一環として、岡山での展示を開催いたしますので、お知らせいたします。

1. 概要

文化庁では、文化庁メディア祭を、国内各地で巡回上映・展示等を行うことにより、国内各地において優れたメディア芸術の鑑賞機会を提供し、我が国のメディア芸術の発展に資するため、文化庁メディア芸術祭国内巡回事業を実施しています。今年度は、岡山、東京、神戸、長崎、仙台での展示を開催する予定です。岡山については別紙のとおり開催いたします。

2. 会期

平成23年8月13日（土）～8月21日（日）

3. 会場

岡山市デジタルミュージアム

4. 開館時間

10:00～18:00

5. 観覧料

無料

6. 主催等

主催：文化庁

共催：岡山市デジタルミュージアム

7. 参考

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業の岡山についての詳細は、CG-ARTS 協会広報担当（岩佐・木村）までお問い合わせください。

<連絡先>CG-ARTS 協会

TEL : 03-3535-3501 FAX : 03-3562-4840

<担当> 文化庁文化部芸術文化課

支援推進室メディア芸術交流係

支援推進室長 清水 功（内線 2858）

支援推進室長補佐 土居 孝一（内線 2062）

メディア芸術交流係長 片桐由紀子（内線 3031）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-3031（直通）

メディア芸術プラザ URL <http://plaza.bunka.go.jp/>

平成 23 年度文化庁メディア芸術祭国内巡回事業

文化庁メディア芸術祭ネットワークス

岡山巡回が、いよいよ 8 月 13 日（土）より開催！

文化庁メディア芸術祭国内巡回事業では「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」と題し、全国の美術館やフェスティバルを巡回し、受賞作品の展示や上映を行うことで文化庁メディア芸術祭の魅力を紹介していきます。岡山、東京、神戸、長崎、仙台の 5 ヶ所で実施する「展示プログラム」では、会場ごとにメディア芸術祭を構成する 4 部門、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガのそれぞれに焦点をあてた展示を行います。

8 月 13 日（土）から、岡山市デジタルミュージアムにて、「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」の岡山巡回を開催します。アニメーション部門に焦点をあて、昨年度の大賞受賞作品である『四畳半神話大系』を中心とした展示を行います。作品全 11 話を上映するほか、原画や資料を展示し、湯浅政明監督の創作活動や、作品の魅力を一瞥に紹介していきます。会場では、歴代受賞作品の変遷を軸に 15 年間の文化庁メディア芸術祭の歩みも紹介します。また、会期中には第 14 回文化庁メディア芸術祭の優秀な映像作品も上映します。アート、アニメーション、エンターテインメントの各部門から選ばれた、新しい視覚体験や表現の幅の広がりを感じる作品をお届けします。この機会にメディア芸術の面白さを感じてみてください。

開催概要

名称：平成 23 年度文化庁メディア芸術祭国内巡回事業 「文化庁メディア芸術祭ネットワークス」
主催：文化庁
共催：岡山市デジタルミュージアム、COMITIA、神戸ビエンナーレ 2011、長崎県美術館
協力：TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING、せんだい演劇工房 10-BOX
事務局：CG-ARTS 協会（財団法人画像情報教育振興協会）

岡山巡回

会場：岡山市デジタルミュージアム
会期：8 月 13 日（土）～ 8 月 21 日（日） ※会期中無休
開館時間：午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）
観覧料：無料 ※岡山市デジタルミュージアム常設展は別途入館料が必要
アクセス：岡山市デジタルミュージアム
〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町 15-1
JR 岡山駅西口向かい、リットシティビル南棟 4・5 階
※専用駐車場、契約駐車場はございません。
お問合せ：CG-ARTS 協会 文化事業部 03-3535-3501

他巡回情報は決まり次第、Web サイト「文化庁メディア芸術プラザ」
<http://plaza.bunka.go.jp/> でご案内します。



■ 広報に関するお問合せ先

CG-ARTS 協会 文化事業部 岩佐・木村 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 iwasa@cgarts.or.jp

展示プログラム

■メイン展示：『四畳半神話大系』 湯浅 政明（第14回アニメーション部門大賞）

作品全11話を上映するほか、貴重な原画や資料を展示します。作品の制作過程や、湯浅政明監督の創作活動、作品の魅力について丁寧に紹介します。ストーリーのキーワードとなる「パラレルワールド」を体感できる機会となります。



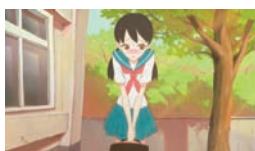
©四畳半主義者の会

上映プログラム

第14回文化庁メディア芸術祭の優秀な映像作品も上映します。アート、アニメーション、エンターテインメントの各部門から選ばれた、新しい視覚体験や表現の幅の広がりを感じる作品をお届けします。

上映場所：4F 講義室

上映日時：8月16日（火）～19日（金）の4日間 ※各日90分×5回限定上映



1. ©石田 祐康



2. ©ビクターエンタテインメント株式会社 / 株式会社ヒップランドミュージック



3. ©ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ



4. ©和田淳/東京藝術大学



5. ©Beomsik Shimbe Shim, all rights reserved

上映作品：『フミコの告白』 石田 祐康（アニメーション部門優秀賞） 画像1

『アルクアラウンド／サカナクション』 関 和亮（エンターテインメント部門優秀賞） 画像2

『夏を待っていました／ amazarashi』 YKBX（エンターテインメント部門優秀賞） 画像3

『わからないブタ』 和田 淳（アニメーション部門優秀賞） 画像4

『The Wonder Hospital』 Beomsik Shimbe SHIM（アニメーション部門奨励賞） 画像5

『CITY』 KIM Young-geun / KIM Ye-young（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『The Homogenics』 Gerard FREIXES RIBERA（アート部門審査委員会推薦作品）

『Rush』 Maarten ROTS（アート部門審査委員会推薦作品）

『factory of dream- 夢を作る工場』 ユーフラテス（アート部門審査委員会推薦作品）

『海からの使者』 のすふえらとう（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『くちやお』 奥田 昌輝（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『Locus』 横地 政樹（アート部門審査委員会推薦作品）

『Shading』 鉛田 慎士（アート部門審査委員会推薦作品）

『魚に似た唄』 竹内 泰人（アニメーション部門審査委員会推薦作品）

『Pico / SJQ』 土屋 貴史（TAKCOM）（エンターテインメント部門審査委員会推薦作品）

『ラストピース 花沢悦子編』 水野 貴信（エンターテインメント部門審査委員会推薦作品）

■文化庁メディア芸術祭について

「文化庁メディア芸術祭」はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなどを対象にしたフェスティバルで、今年で15回目を迎えます。第14回では世界49ヶ国・地域から2,645作品の応募があり、受賞作品展には70,126名の来場がありました。今年度の作品募集は7月25日（金）から9月22日（木）まで。 <https://bunka-jmaf.jp/>